

開講期	2025年度前期、2025年度後期			単位数	4.0単位
科目[授業]名	4039 人間科学論演習11			開講形態 (隔週 偶数 = 隔週2コマ)	週間授業
種別	クラス指定必修			定員	
履修可能学年	2年/3年/4年	重複履修	○	全学開講	○
曜日時限	月曜3限				
教室	G205教室				
代表教員	挽地 康彦				
担当教員	挽地 康彦				
テーマと到達目標	2025年度のゼミのテーマは「難民」である。2015年の欧州難民危機から今年で10年になるが、難民救済はいまなお世界で大きな課題になり続けている。ゼミでは主に日本を対象にして、入管政策の動向、難民申請者の生活、ヘイトの横行などについて社会的に調査・研究していく。				
概要	上記のテーマを軸としながら、前期では調査と文献講読、後期では各自の研究報告を中心に進めていく。調査ではフィールドワークを兼ねるかもしれない。文献講読では、議論する内容に応じて複数の文献を輪読する。各自の研究報告では、卒論・卒研執筆に向けて自身の問題関心を深める作業を積み重ねていってもらおう。今年度は社会学における多様な研究手法を駆使するゼミになるので、受講者の基礎力と応用力の向上に力を入れる。				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員 (複数の教員が担当する場合のみ記載)	授業方式
第1回	オリエンテーション				対面授業
第2回	卒論中間報告①：4年生				対面授業
第3回	卒論中間報告②：4年生				対面授業
第4回	卒論中間報告③：4年生				対面授業
第5回	【調査編】日本の難民問題①：クルド人				対面授業
第6回	【調査編】日本の難民問題②：クルド人				対面授業
第7回	【調査編】日本の難民問題③：クルド人				対面授業
第8回	【入門編】文献講読①：移民・難民				対面授業
第9回	【入門編】文献講読②：移民・難民				対面授業
第10回	【入門編】文献講読③：移民・難民				対面授業
第11回	エスノグラフィーの方法①：レス・バック『移民都市』				対面授業
第12回	エスノグラフィーの方法②：レス・バック『移民都市』				対面授業
第13回	論点「日本の入管政策」：難民認定①				対面授業
第14回	論点「日本の入管政策」：非正規滞在者②				対面授業
第15回	論点「日本の入管政策」：教育・医療・福祉③				対面授業
第16回	後期のオリエンテーション				対面授業
第17回	卒論中間報告④				対面授業
第18回	卒論中間報告⑤				対面授業
第19回	卒論中間報告⑥				対面授業
第20回	【調査編】日本の難民問題①：メディア分析				対面授業
第21回	【調査編】日本の難民問題②：メディア分析				対面授業
第22回	【調査編】日本の難民問題③：メディア分析				対面授業
第23回	【立論の仕方①】レビューの方法				対面授業
第24回	【立論の仕方②】論文の形				対面授業
第25回	3年生の研究報告①				対面授業

第26回	3年生の研究報告②		対面授業
第27回	3年生の研究報告③		対面授業
第28回	卒研・卒論提出の準備①		対面授業
第29回	卒研・卒論提出の準備②		対面授業
第30回	卒業論文の講評		対面授業
成績評価の基準	<p>成績は、以下の3項目によって評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席 (30%)</li> <li>2. 受講者自身がゼミに対してどれだけ貢献したか (30%)</li> <li>3. 調査や研究報告など課題を適切にこなしたか (40%)</li> </ol> <p>* 出席率が低い受講者は単位取得できない (遅刻の常習も同様である)。 * ゼミへの貢献に関する具体的な評価については、発表や討論などにおける姿勢、その他ゼミでの諸活動を参考にする。</p>		
履修にあたっての留意事項	<p>* 他の受講者をリスペクトしない学生、利他性に欠ける学生は歓迎しない。 * 教室はG205から変更する可能性がある (前期初回のゼミはG205で行う)。 * 毎回のゼミは月曜3限から延長する機会が多いため、月曜4限以降は空けておくことを勧める。 * 定例ゼミの他にも、スタディツアーやゼミ合宿、フィールドワーク (調査) などの課外活動を予定している。 * ゼミは毎回参加するのが必須である。理由もなく欠席や遅刻を繰り返す学生は単位取得できない。</p>		
オンライン授業方式(同時双方向型・オンデマンド型)の詳細			
【種別】人数制限 (抽選) 授業の優先条件			

◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用	受講者自身の研究テーマの探究に必要な資料 (書籍など) の購入費用		
教科書	特に指定しない。	教科書 (ISBN)	
参考文献	<p>レス・バック、シャムサー・シンハ『移民都市』人文書院 山村淳平『難民への旅』現代企画室 山岡健次郎『難民との友情 難民保護という規範を問い直す』明石書店 佐々涼子『ボーダー 移民と難民』集英社インターナショナル など他も適宜、紹介する。</p>	参考文献 (ISBN)	